

鳥栖市文化財調査報告書第83集

給油所建設に伴う埋蔵文化財調査報告書

藪原遺跡

5区の調査



2011

鳥栖市教育委員会

序

鳥栖市は、背振山地の東端部の九千部山を最高所として傾斜し、九州で最大の大川である筑後川に面した、水と緑豊かな内陸都市です。この地域は古来より現代に至るまで九州の交通の要所でもあり、そのため貴重な文化財が数多く存在しています。

本書は、給油所建設に伴い埋蔵文化財発掘調査を実施した鳥栖市神辺町に所在する藪原遺跡の調査報告書です。

調査の結果、古墳時代～中世にかけての遺構・遺物を確認することができました。本書を通じて地域の文化財に対して一層のご理解をいただき、また学術文化の向上に寄与するものであれば幸いに存じます。

最後になりますが、開発と文化財保護との調整にご理解とご協力をいただきました喜多村石油株式会社様、そして発掘作業や整理作業に従事された方々にお礼を申し上げます。

平成 23 年 3 月 31 日

鳥栖市教育委員会

教育長 檜崎 光政

例 言

1. 本書は給油所建設に伴い発掘調査を実施した、鳥栖市神辺町に所在する蕨原遺跡の調査報告書である。
2. 発掘調査は、平成 21 年 12 月 3 日～平成 22 年 1 月 26 日、整理報告は平成 22 年 4 月 30 日～平成 23 年 3 月 31 日まで、喜多村石油株式会社の委託を受けて鳥栖市教育委員会が実施した。
3. 出土遺物の整理を含む報告書作成作業は鳥栖市牛原町文化財整理室で行った。
 - ・遺構実測 中田里美・中村光子・平田博子・山本美代子・大庭敏男・島 孝寿
 - ・遺構写真 島 孝寿
 - ・遺物復元 中村光子・山本美代子
 - ・遺物実測 権藤由美子・中田里美・毛利よし子・島 孝寿
 - ・製 図 権藤由美子・毛利よし子
 - ・遺物写真 島 孝寿
4. 本書の執筆・編集は島が担当した。

凡 例

1. 本書で報告する調査地区については、5 区とする。
2. 遺跡の略号は蕨原遺跡（SYH）である。
3. 遺構の種別を表す分類番号は次のとおりである。
SH：竪穴住居 SK：土坑 SD：溝
4. 遺構図に用いた方位は、座標北である。
5. 測定値の表示に用いた単位は遺構m、遺物cmを原則としている。
6. 表で示した計測値は、（ ）は復元値、〈 〉は残存値を表記するものとする。

本文目次

第1章 調査の概要	1
I. 調査に至る経過	1
II. 調査の組織	1
第2章 地理的・歴史的環境	2
I. 地理的環境	2
II. 歴史的環境	2
第3章 調査の内容	4
I. 遺跡の概要	4
II. 遺構と遺物	4
第4章 まとめ	20

挿図目次

図1 遺跡分布図 (1/20,000)	2
図2 遺跡位置図 (1/5,000)	4
図3 遺構配置図 (1/200)	5
図4 SH501、SH502 平面・断面図 (1/60)	6
図5 SH503、SH504 平面・断面図 (1/60)	7
図6 SH505、SH506 平面・断面図 (1/60)	8
図7 SH507 平面・断面図 (1/60)	9
図8 SK501、SK502、SK503 平面・断面図 (1/40)	10
図9 SK504、SK505、SK506、SK507、SK508 平面・断面図 (1/40)	11
図10 SD502、SD503 土層図 (1/20)	12
図11 SH501、SH502、SH504、SH505、SH506、SH507 出土遺物 (1/3、7のみ1/2)	13
図12 SK501 出土遺物 1 (1/3)	14
図13 SK501 出土遺物 2 (1/3)	15
図14 SK502、SK504、SK505、SK508 出土遺物 (1/3)	16
図15 SD502 出土遺物 (1/3)	17
図16 その他の出土遺物 (1/3)	17

表目次

表1 藪原遺跡5区遺物一覧表	18
----------------	----

写真図版目次

- 写真図版 1 1. 調査区全景（北から） 2. 調査区全景（南から）
- 写真図版 2 1. 調査区全景（西から） 2. SH501、SK508（南から） 3. SH502（東から）
4. SH503（東から） 5. SH504（北から）
- 写真図版 3 1. SH504 柱穴出土土器状況（北から） 2. SH505（南から） 3. SH507（南から）
4. SK501（北から） 5. SK501 出土土器状況（北から） 6. SK502（東から）
7. SK504、SK505（東から） 8. SD501、SD502、SD503（南から）
- 写真図版 4 1. SK501 出土土器 1 2. SK501 出土土器 2 3. SK501 出土石器
4. SK502 出土土器 5. SK504 出土土器 6. SK504、SK505 出土土錘
7. SH502 出土ガラス玉 8. SH504 出土土器 9. SD502 出土土器

第1章 調査の概要

I. 調査に至る経過

平成21年10月13日付けで、喜多村石油株式会社より鳥栖市神辺町字下川原6-3外、2,627㎡について、給油所の拡張に伴う埋蔵文化財の有無及び照会が鳥栖市教育委員会に提出された。対象地区は、周知の埋蔵文化財包蔵地ではなかったが、藪原遺跡及び西海道肥前路に推定されている地区に隣接しているため、生涯学習課では平成21年10月26～28日、30日まで試掘調査を実施した。その結果、対象地内600㎡から遺構・遺物を確認した。発見された地点は、藪原遺跡として平成21年11月27日付けで佐賀県遺跡台帳に登載され拡大された。

試掘調査の結果に基づき協議を行ったが、遺構が確認された箇所については掘削が予定されており、また工事工法の変更等が不可能であるため、平成21年度内に発掘調査を行い記録保存することで合意した。なお現給油所については、現状で遺構が存在すると考えられる高さから2mほど削平されており、現給油所撤去の際の立会でも遺構・遺物については確認できなかった。

本調査は平成21年12月3日から平成22年1月26日にかけて実施し、出土遺物・調査記録類の整理および調査報告書作成業務は、平成22年4月30日から平成23年3月31日の期間、鳥栖市牛原町文化財整理室において実施した。

II. 調査の組織

鳥栖市教育委員会が主体となって実施した。組織は以下のとおりである。

調査主体 鳥栖市教育委員会

教育長	檜崎光政
教育部長	西山八郎
教育部次長兼生涯学習課長	中島光秋
生涯学習課参事	篠原久子
生涯学習課文化財係	
文化財係長	久山高史
文化財係主査	向田雅彦
	鹿田昌宏（事前審査・確認調査担当）
	重松正道
	内野武史
	島 孝寿（本調査・報告書作成担当）
	大庭敏男

調査協力 佐賀県教育委員会社会教育・文化財課 喜多村石油株式会社

現場発掘作業	古賀道治	篠原英雄	直塚 功	陶山尚史	永戸政治	永瀧笑美子
	皆良田憲男	皆良田涼子	岩崎憲五	山本美代子	平田博子	中村光子
	中田里美					
室内整理作業	山本美代子	中村光子	権藤由美子	毛利よし子	中田里美	

第2章 地理的・歴史的環境

I. 地理的環境

鳥栖市は、佐賀県の東端部に所在し、福岡県久留米市・小郡市・那珂川町と県境を接している。位置は、東経13°30'20"、北緯33°22'37"（鳥栖市役所）で、面積は71.73km²を測り、人口は68,544人（平成23年2月末現在）である。地形は九千部山（847.5m）を主峰として、東に杓子ヶ峰（312.1m）、西に石谷山（754.4m）が連なり、それぞれ南東ないしは南方向に丘陵地に伸び、平坦部になって筑後川に至る。山々は幾重にも重なり合い、各支嶺間は断層によって生じた裂け目を流下する河川が山地を侵食して、山麓に扇状の堆積地を形成している。

鳥栖市は、古来より交通の要衝であり、古代には官道である西海道、近世には長崎街道が通り、現在では九州縦貫自動車道と九州横断自動車道が交差し、J R 鹿児島本線と長崎本線及び久大本線、国道3号線・34号線が分岐している。また九州新幹線では新鳥栖駅が開業することで、九州内の主要交通機関を網羅し、各都市へのアクセスが容易である。

II. 歴史的環境

市内の遺跡は、主に高位段丘～低位段丘上で展開しており、旧石器時代～近世にかけて約190遺跡が確認されている。また沖積層が広がる南部地区では、遺跡の痕跡は現在まで殆どみることができない。

旧石器時代は、長ノ原遺跡・本川原遺跡・平原遺跡・牛原原田遺跡で、ナイフ形石器・尖頭器・台形石器などがみられるが、明確な遺構から出土した例は現在までない。



図1 遺跡分布図 (1/20,000)

- ① 藪原遺跡 ② 天神木遺跡 ③ 鎗田遺跡 ④ 中川原遺跡 ⑤ 浅井遺跡 ⑥ 加藤田遺跡 ⑦ 加藤田一丁目遺跡
⑧ 中島遺跡 ⑨ 田代太田古墳 ⑩ 畑田遺跡 ⑪ 本川原遺跡 ⑫ 上天遺跡 ⑬ 田代代官所跡 ⑭ 田代大官町遺跡
⑮ 田代外町遺跡 ⑯ 清水ヶ本遺跡 ⑰ 姫方遺跡 ⑱ 大手木遺跡 ⑲ 本原遺跡 ⑳ 下原遺跡 ㉑ 上鳥栖遺跡
㉒ 町上遺跡 ㉓ 池田遺跡 ㉔ 国泰寺遺跡 ㉕ 隈遺跡 ㉖ 古賀天満宮遺跡

縄文時代にはいと、今町共同山遺跡から草創期～早期にかけての刺突文土器、早期では西田遺跡から多数の集石遺構に伴い、多量の押型文土器を検出している。前期では牛原原田遺跡から曾畑式土器、中期に入ると平原遺跡から集石遺構 40 基とともに並木式土器が出土している。後期では蔵上遺跡から土器棺墓 41 基・住居跡 10 軒を検出し、土偶や十字形石器などが大量に出土している。晩期には村田三本松遺跡で甕棺墓地群が形成されている。

弥生時代前期に入ると、幸津遺跡から環濠と推定される大溝が確認され、フケ遺跡・ハツ並金丸遺跡などが立地する「柚比遺跡群」では甕棺墓地が出現する。中期になると平原遺跡・安永田遺跡、前田遺跡などで集落跡が確認されるが、安永田遺跡では青銅器鑄造遺構や銅鐸・銅矛の鑄型、前田遺跡・柚比本村遺跡・大久保遺跡・平原遺跡からも鑄型が出土している。また市内の南西部に位置する本行遺跡からも青銅器、鑄型類が出土しており、青銅器生産の拠点的な集落の存在が明らかになっている。墓域は、柚比梅坂遺跡・柚比本村遺跡・安永田遺跡などが挙げられるが、特に柚比本村遺跡からは赤漆玉細装鞘銅剣を含む 7 本の銅剣が甕棺墓及び木棺墓より出土し、また祖霊祭祀に使用されたと思われる弥生時代最大級の大型建物跡、多数の丹塗磨研土器を含む祭祀土坑を検出している。後期に入ると丘陵部の遺跡群から中心地は中低位段丘上に移動する。本原遺跡・牛原原田遺跡・蔵上遺跡・内精遺跡・藤木遺跡などがこれにあたる。蔵上遺跡と内精遺跡で住居跡 230 軒以上、藤木遺跡からは環濠の一部と思われる大溝が確認されている。

古墳時代前期・中期には、赤坂前方後方墳、日岸田遺跡・今泉遺跡などから方形周溝墓が出土している。5 世紀になると山浦古墳群・薄尾遺跡群・所熊山古墳群などの墳墓群が形成されていく。集落は元古賀遺跡・牛原前田遺跡など現在のところわずかにすぎないが、6 世紀代に入ると平原遺跡・大久保遺跡・元古賀遺跡・蔵上遺跡・内精遺跡などで大規模集落が形成される。また剣塚前方後方墳・東田前方後方墳・岡寺前方後方墳・庚申堂塚前方後方墳・牛原原田 5 号墳の 5 基の前方後方墳、田代太田古墳・ヒャーガンサン古墳の 2 つの彩色系装飾古墳が築造される。中型古墳としては梅坂古墳・神山古墳・稲塚古墳などがみられ、背振山系の山麓部を中心に東十郎・都谷・永田古墳群などの群集墳が数多く築かれる。

当地は肥前国東端で筑前・筑後国と接する三国国境にあたり、大木川を境に北東部は基肄郡、南東部は養父郡に属する。「肥前風土記」によると、基肄郡は「郷陸（六）所、里十七、驛壺所小路」とあり、養父郡は「郷肆（四）所、里一十二、蜂壺所」とある。基肄郡家の位置は確定していないが、ハツ並金丸遺跡では大型掘立柱建物跡、大久保遺跡からは同時期と推定される建物跡が多数検出しており関連が注目される。養父郡家は、蔵上町の老松神社西周辺を推定地としているが、これを裏付けるように蔵上遺跡から掘立柱建物跡を多数検出し、「厨番」と記した墨書土器が出土している。集落は基肄郡では三ヶ敷梅坂・加藤田遺跡・本原遺跡など、養父郡では惣楽遺跡・柳の元遺跡・蔵上遺跡などが確認されている。なお風土記の養父郡「烽壺所」は、朝日山に比定されている。

律令体制が衰退する平安時代後期以降、鳥栖地域においても荘園が形成されるようになり、13 世紀末には基肄・養父両郡のほぼ半数の耕地を荘園が占めるに至る。この大部分は大宰府天満宮安楽寺領で、あとは宇佐八幡宮弥勒寺領だが、実質的には土々呂木・曾禰崎氏などの御家人地頭によって荘園が支配されていた。今泉遺跡では濠を巡らした屋敷地をみることができる。

室町時代に入ると、鳥栖市域を含む東肥前地域は南北朝の動乱の場となり、その後も戦乱が絶えなかった。戦国時代にはいと、明応 6 年（1497）に筑紫氏が鳥栖地域を押さえて以降、天正 14 年（1586）に島津氏に攻略されるまでの約 90 年間、勝尾城を本城に多くの支城群が構成され、山麓には武家屋敷や町屋など城下町も形成されている。

近世以降、基肄郡と養父郡の東半分は対馬藩領に、養父西半分は佐賀藩領となる。また長崎街道が整備されるとともに両藩領域にはそれぞれ田代宿、轟木宿が設けられた。田代宿には対馬藩肥前田代領（1 万 6 千余石）の統治機関として代官所が設置され、轟木宿では佐賀藩の番所が設置されていた。明治時代になると巖原県・伊万里県・三潞県・長崎県を経て明治 16 年に佐賀県となった。昭和 29 年には、鳥栖町・田代町・基里村・麓村・旭村の 5 町村が合併し、鳥栖市として今日に至っている。

第3章 調査の内容

I. 遺跡の概要

菽原遺跡は、大木川左岸地区の中位段丘上に位置し、過去本調査が4地区で実施されており、弥生時代後期後半～平安時代にかけての遺構・遺物が出土している。今回、給油所の拡張工事が計画され、試掘調査を実施した結果、約2,600㎡のうち約600㎡から遺構を検出した。この地区を5区に設定し、本調査を実施した。調査の結果、住居7軒、土坑8基、溝3条、小穴などを検出した。住居・土坑については古墳時代後期～平安時代、溝は中世にかけてのものである。遺物については、須恵器、土師器、ガラス玉、挟入板状片刃石斧などが出土している。

II. 遺構と遺物

SH501

平面プランは、一部調査区外にあたることから確定は出来ないが、ほぼ方形と推測される。長辺5.60m、短辺5.50m、残存壁高0.30mを測る。床面積は30㎡程である。支柱穴は主軸上に3本確認することができ、柱間は約2.40m、深さ最大0.75mである。竈は北壁際中央にあり、若干の窪みを有しており焼土が堆積している。ただし残存状況は不良で、明確な竈袖や支脚石などは確認することができなかった。SK508より後出する。

出土遺物は、図11-1は土師器の坏蓋で摘みをもつ。2は土師器の直口壺、3・4は坏で2は内面に磨きを施している。

SH502

平面プランは方形である。長辺3.60m、短辺3.58m、残存壁高0.18mを測る。床面積は13㎡程である。明確な支柱穴は検出していない。また竈についても確認していない。西壁隅が張り出し、土坑が備えつけられている。

出土遺物は、図11-5の須恵器坏蓋、6の手捏土器が出土する。また小穴から直径1.4cm、高さ0.45cmの緑色のガラス玉(図11-7)が出土する。

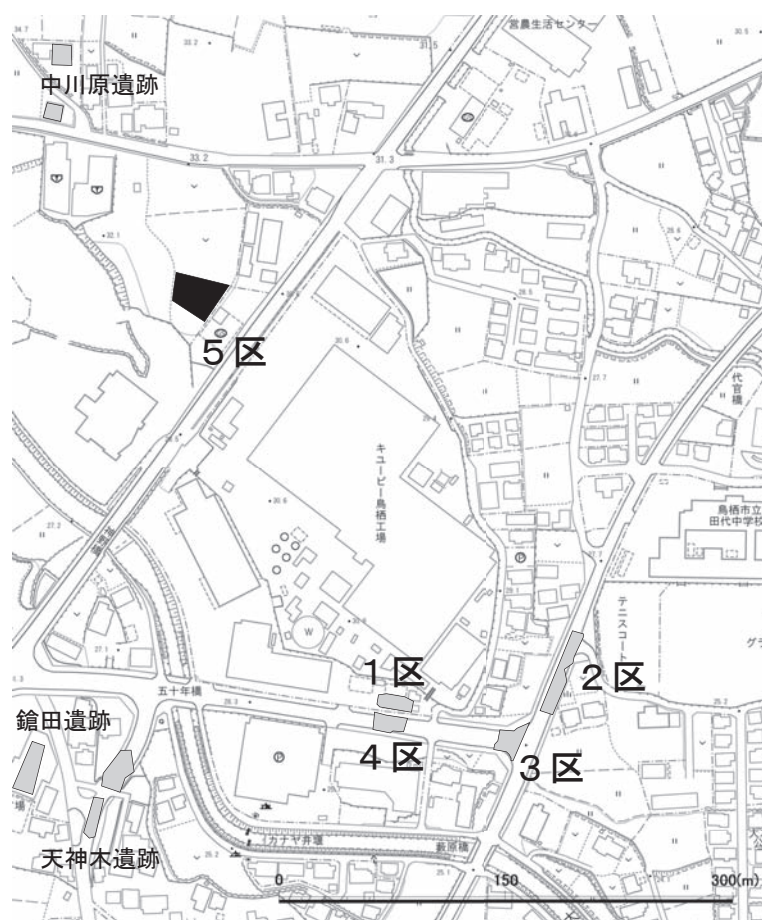


図2 遺跡位置図 (1/5,000)

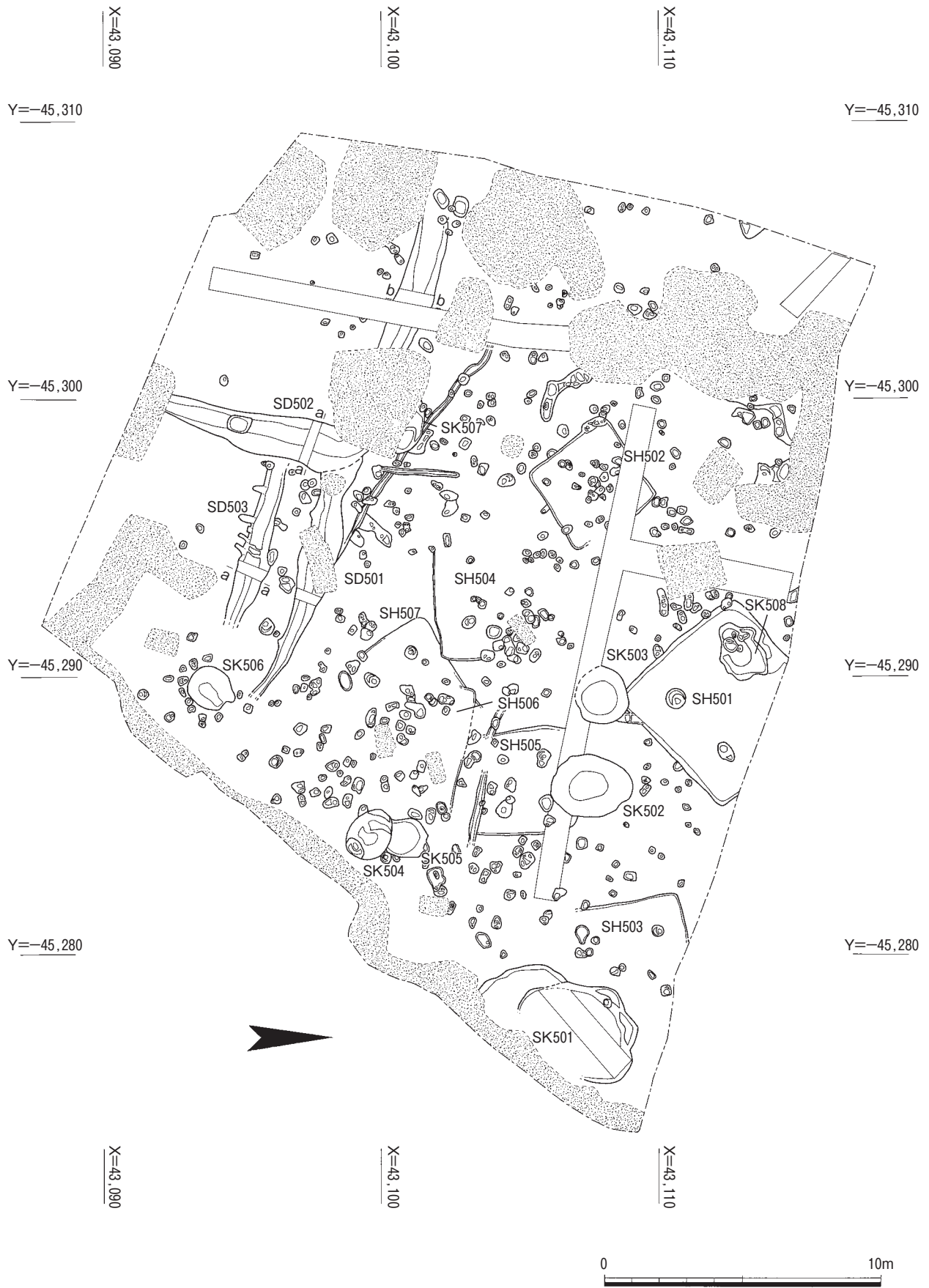


図3 遺構配置図 (1/200)

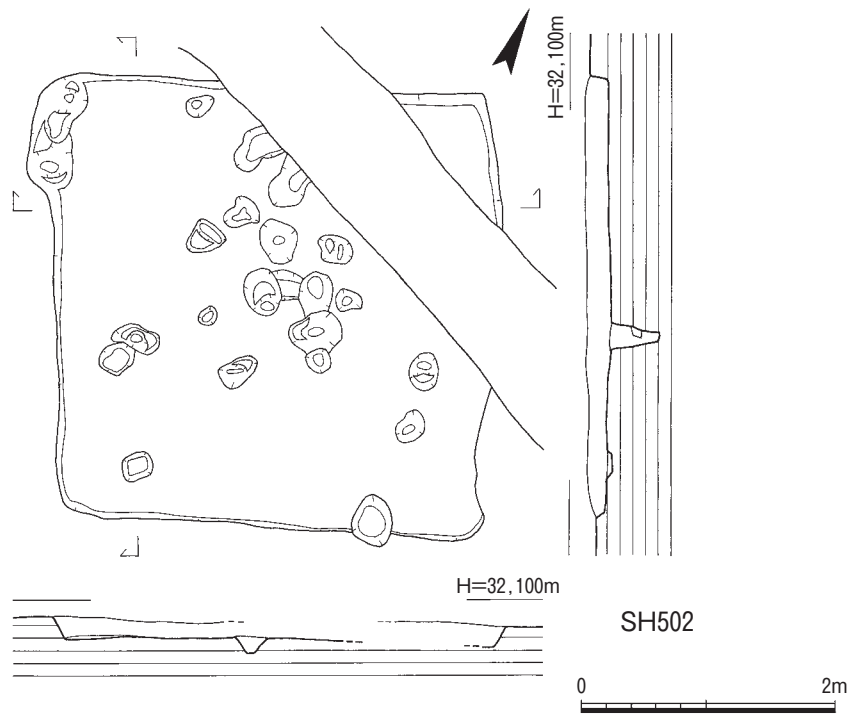
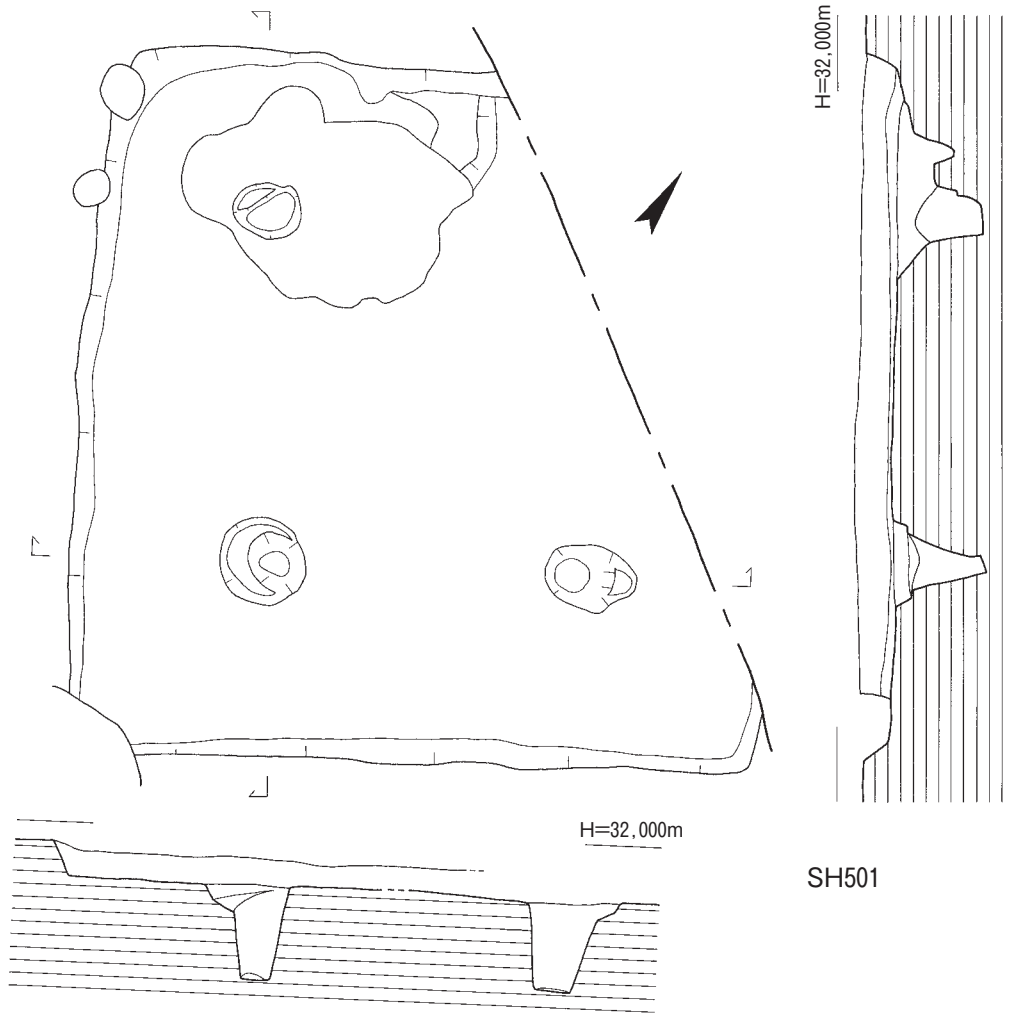
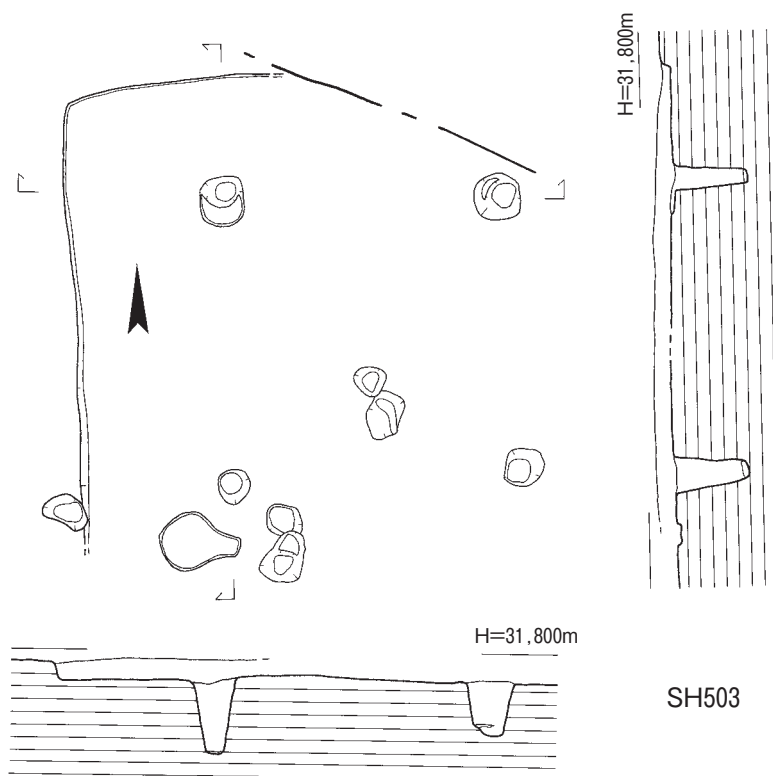


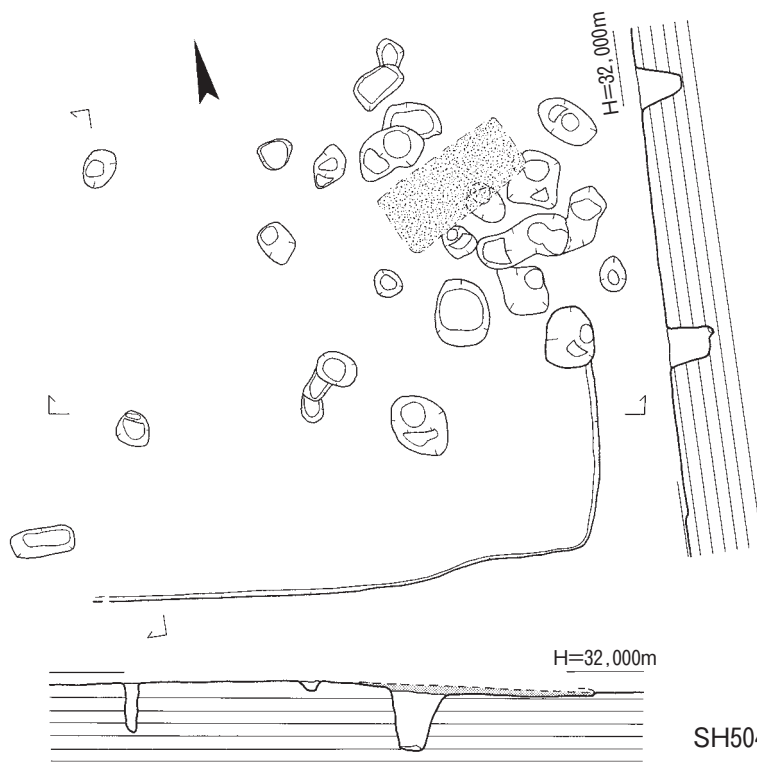
图4 SH501、SH502 平面·断面图 (1/60)



SH503

平面プランは方形（推定）である。長辺 4.30+m、短辺 4.30+m、残存壁高 0.16m を測る。支柱穴は主軸上に 4 本確認することができ、柱間は約 2.30m、深さ最大 0.60m をとる。残存状況は不良で東及び南壁は検出できなかった。また竈についても確認できなかった。SK501 の中に支柱穴が確認できるが、切り合い関係については不明である。

出土遺物は、土師器の小破片 1 点のみである。



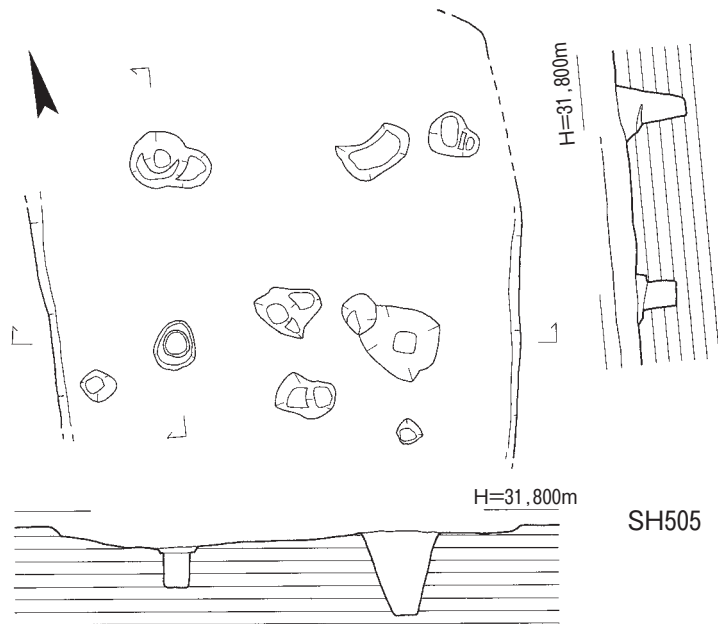
SH504

平面プランは方形（推定）である。長辺 4.50+m、短辺 4.50+m、残存壁高 0.05m を測る。床面積は 20~25㎡程と推定される。切り合い関係から SH507 より後出する。支柱穴は主軸上に 4 本確認することができ、柱間は約 2.30m、深さ最大 0.45m をとる。残存状況は不良であり、北及び西壁は検出できなかった。また竈についても確認していない。支柱穴からは、椀（黒色土器）2 点を逆さに埋納された状態で出土している。住居廃棄の際に埋められたものであろう。

出土遺物は、図 11-8 の土師器皿と 9・10 の土師器椀が 2 点出土している。黒色土器は内面のみ黒色であり磨かれている。



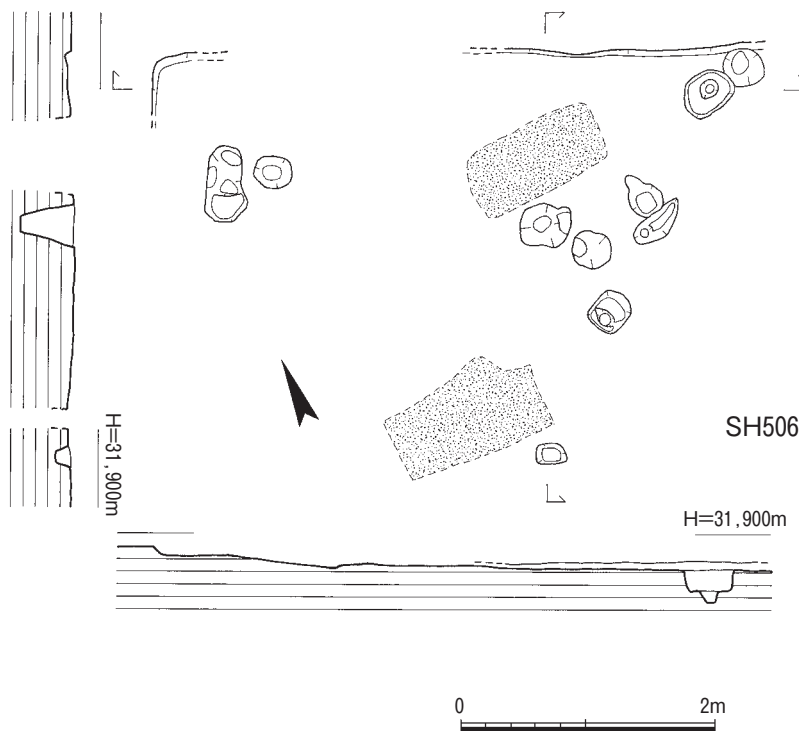
図 5 SH503、SH504 平面・断面図 (1/60)



SH505

平面プランは方形（推定）である。長辺 3.75m、短辺 3.50 + m、残存壁高 0.08m を測る。支柱穴は主軸上に 4 本確認することができ、柱間は約 1.80m、深さ最大 0.65m をとる。残存状況は不良で、南北の壁及び竈については確認できなかった。

出土遺物は、図 11-11 の土師器甕、12 の須恵器の坏身が出土する。



SH506

平面プランは方形（推定）である。長辺 5.50 + m、短辺 5.00 + m、残存壁高 0.04m を測る。残存状況は不良で、住居の隅のみの検出である。支柱穴・竈は確認できなかった。切り合い関係から SH507 より後出する。

出土遺物は、図 11-13 の坏が出土する。

SH507

平面プランは方形（推定）である。長辺 3.50 + m、短辺 3.50 + m、残存壁高 0.15m を測る。床面積は 12~16㎡程と推定される。支柱穴は主軸上に 4 本確認することができ、柱間は約 1.70m、深さ最大 0.55m をとる。北壁際中央に若干の窪みを有しており、竈の一部と思われるが、竈袖や焼土・炭などは確認できなかった。住居内には一部小溝が壁際に廻らされている。残存状況は不良である。切り合い関係から SH504、SH506 より先行する。

図 6 SH505、SH506 平面・断面図 (1/60)

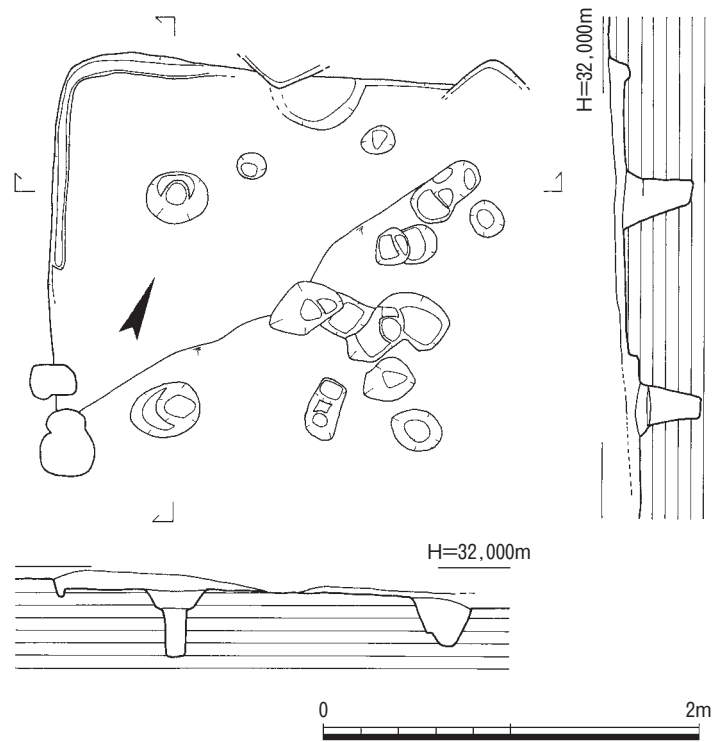


図7 SH507 平面・断面図 (1/60)

出土遺物は、図 11-14 の土師器甕が出土する。

SK501

平面プランは楕円形で長さ 5.50m、深さ 0.55m 前後を測る。南側については一部、削平を受けている。底部の 2 カ所から遺物が集中して出土している。そのなかで特出すべきものとして、須恵器・土師器とともに出土した図 13-34 柱状片刃石斧があげられる。藪原遺跡や周辺地区からは弥生時代前期の遺構・遺物は確認されておらず、出土状況からも流れ込みに可能性は低く、別の場所から意図的に持ち込まれたものであろう。

出土遺物は、図 12-15~17 は須恵器の坏蓋、18・20 は坏身、19 は土師器の坏身である。21・23 は高坏、22・24 は坏、25~30、図 13-31~33 は土師器甕、33 は完形である。25~27 の甕の口縁部内面に炭が付着しており、火を使用した形跡が残る。34 の抉入柱状片刃石斧は、出土状況から何らかの祭祀行為の際に埋納されたものと推測される。

SK502

平面プランは楕円形で長さ 2.90m、幅 2.28m、深さ 0.60m 前後を測る。断面は挿鉢状である。

出土遺物としては、図 14-35~37 は坏、38 は皿、39 は須恵器壺、40 は甕、41・42 は椀である。

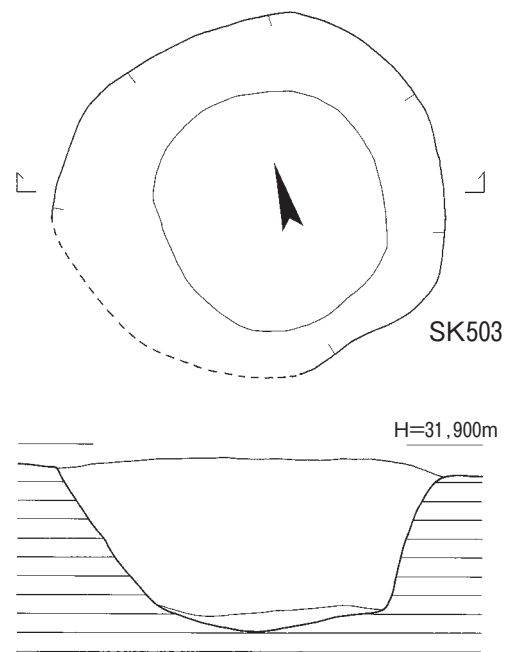
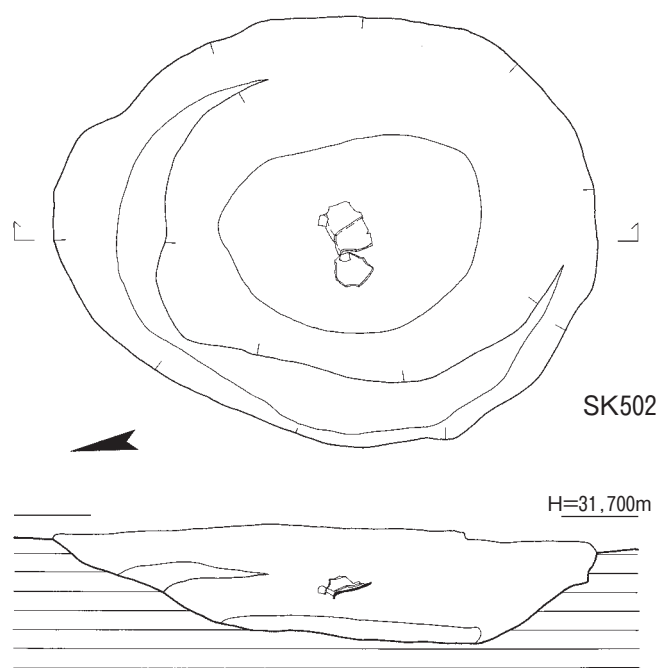
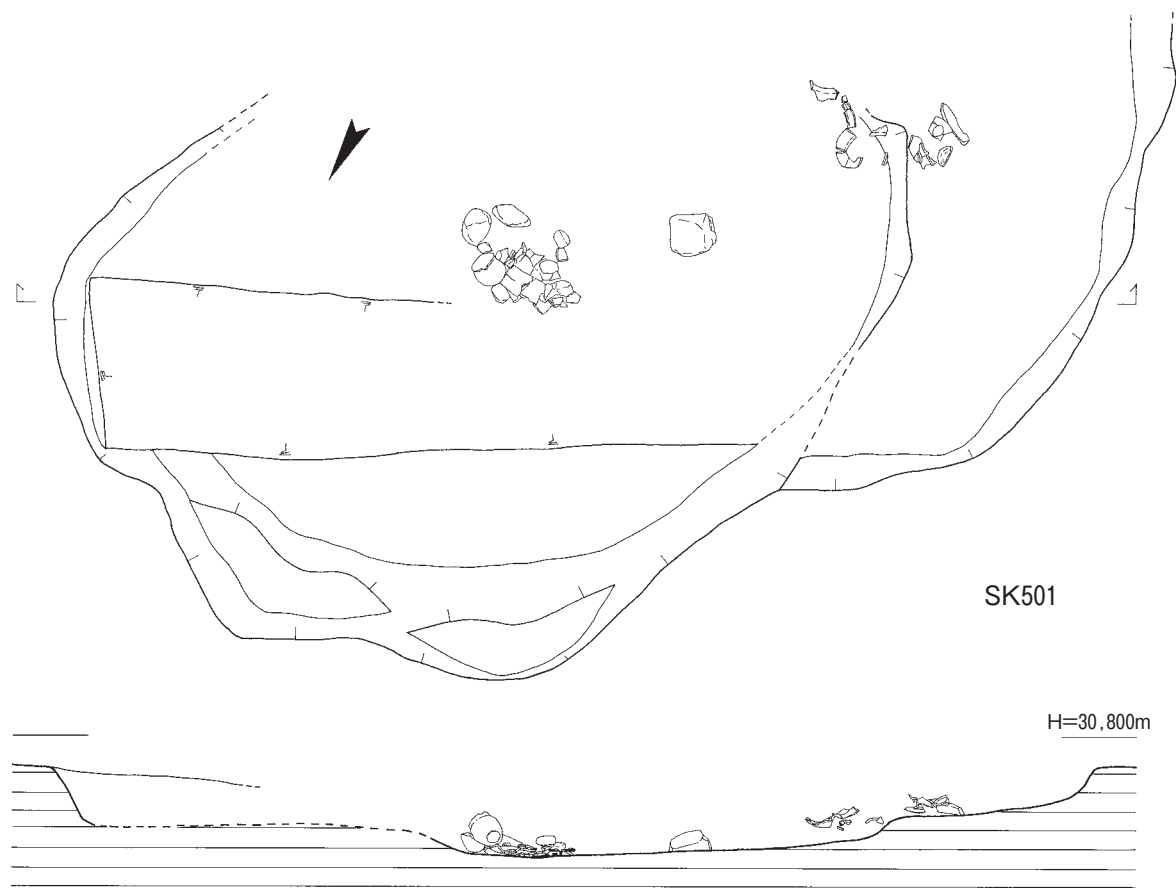


图8 SK501、SK502、SK503 平面·断面图 (1/40)

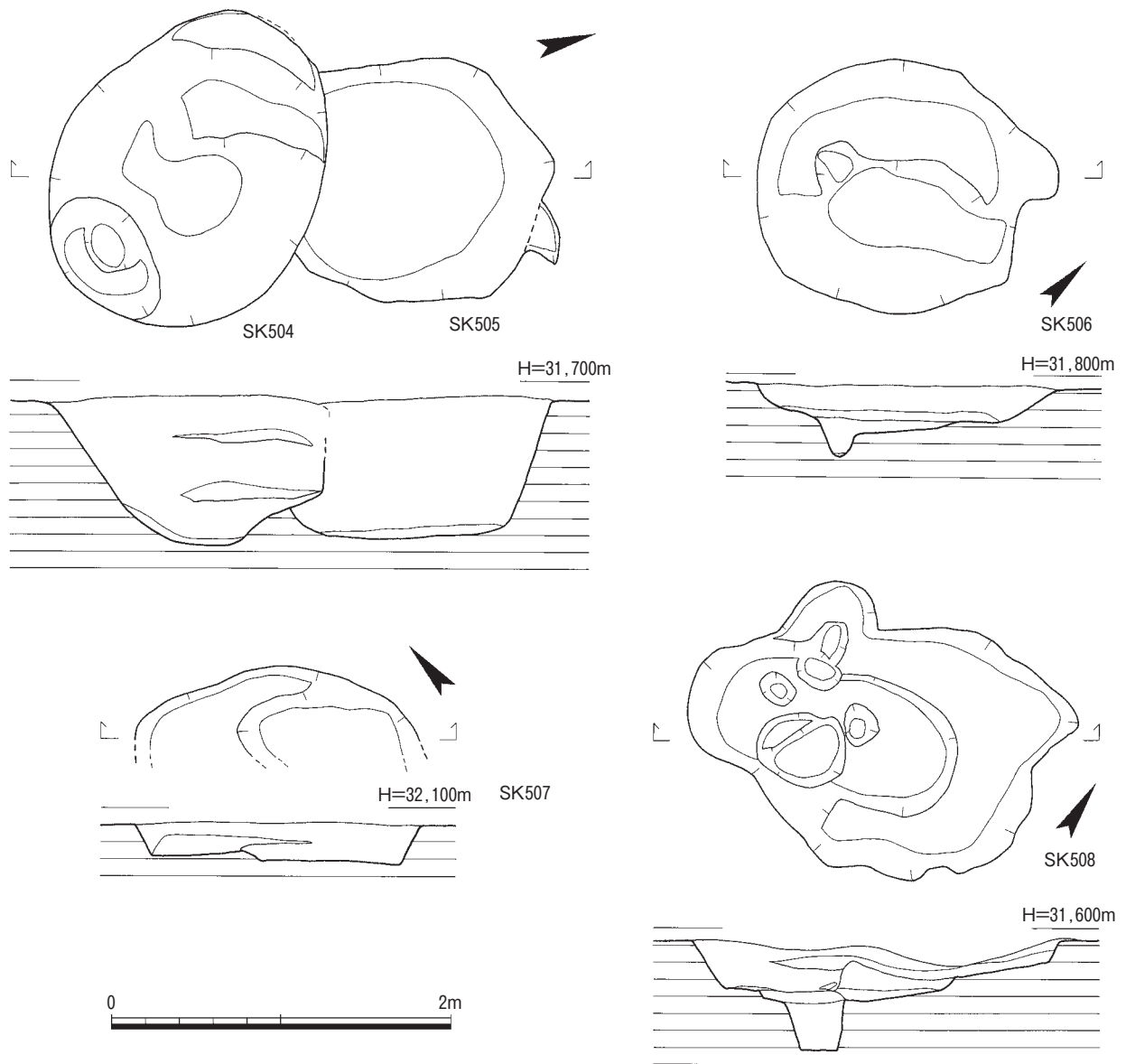


図9 SK504、SK505、SK506、SK507、SK508 平面・断面図 (1/40)

SK503

平面プランは楕円形で長さ2.06m、幅1.92m、深さ0.92m前後を測る。切り合い関係からSH501より後出する。出土遺物は、土師器片がわずかにみられるのみである。

SK504

平面プランは楕円形で長さ1.90m、幅1.55m、深さ0.88m前後を測る。切り合い関係からSK505より後出する。出土遺物は、図14-43～46は坏、47は甕、48は椀、49・50は土錘である。

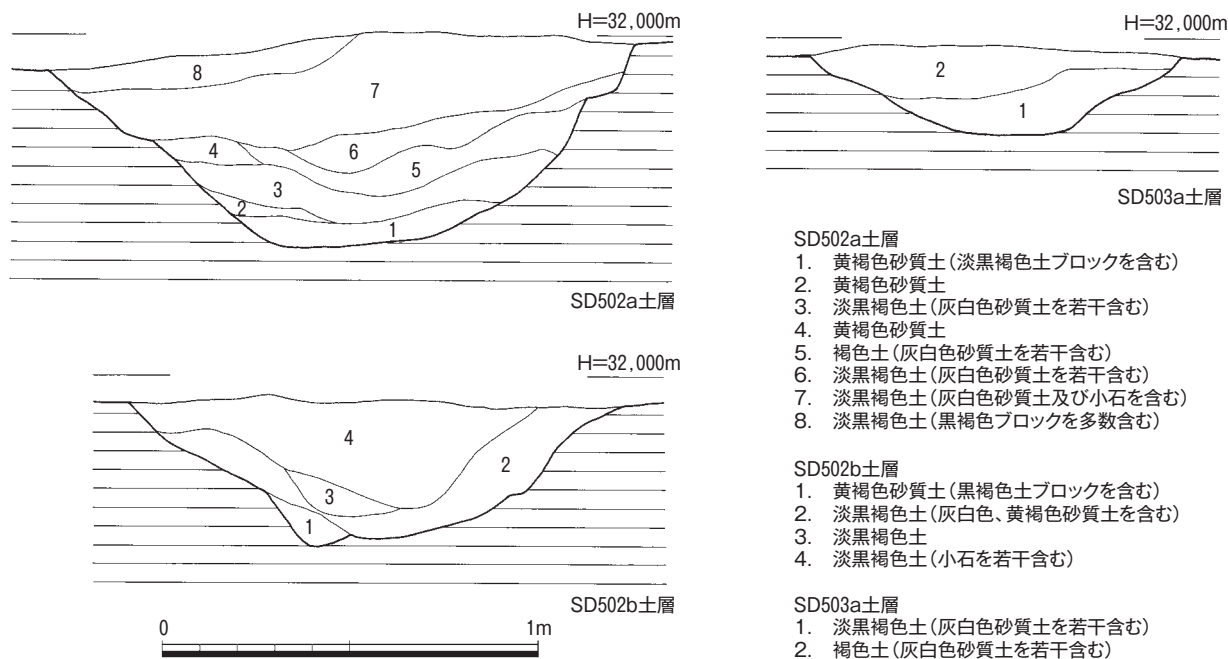


図10 SD502、SD503 土層図 (1/20)

SK505

平面プランは円形で長さ1.50m、深さ0.80m前後を測る。切り合い関係からSK504より先行する。

出土遺物は、図14-51は坏、52は甕、53は土錘である。

SK506

平面プランは楕円形で長さ1.78m、幅1.50m、深さ0.25m前後を測る。

出土遺物は、陶磁器片がわずかにみられるのみである。

SK507

平面プランは楕円形(推定)で長さ1.66m、深さ0.23m前後を測る。半分近くが削平を受けている。

出土遺物は、土師器片のみである。

SK508

平面プランは楕円形で長さ2.28m、幅1.45m、深さ0.28m前後を測る。切り合い関係からSH501より先行する。

出土遺物は、図14-54の坏身、55の皿である。

SD501

最大幅は1.30m、深さ最大1.00mを測る。SD503溝と平行しており、SD502溝から切られている。断面は逆台形である。

出土遺物は、土師器片が少量出土しているが、判別できる遺物は確認できなかった。

SD502

L字型の溝が立地する。最大幅は1.55m、深さ最大0.55mを測る。断面は逆台形である。区画溝と思われるが、一

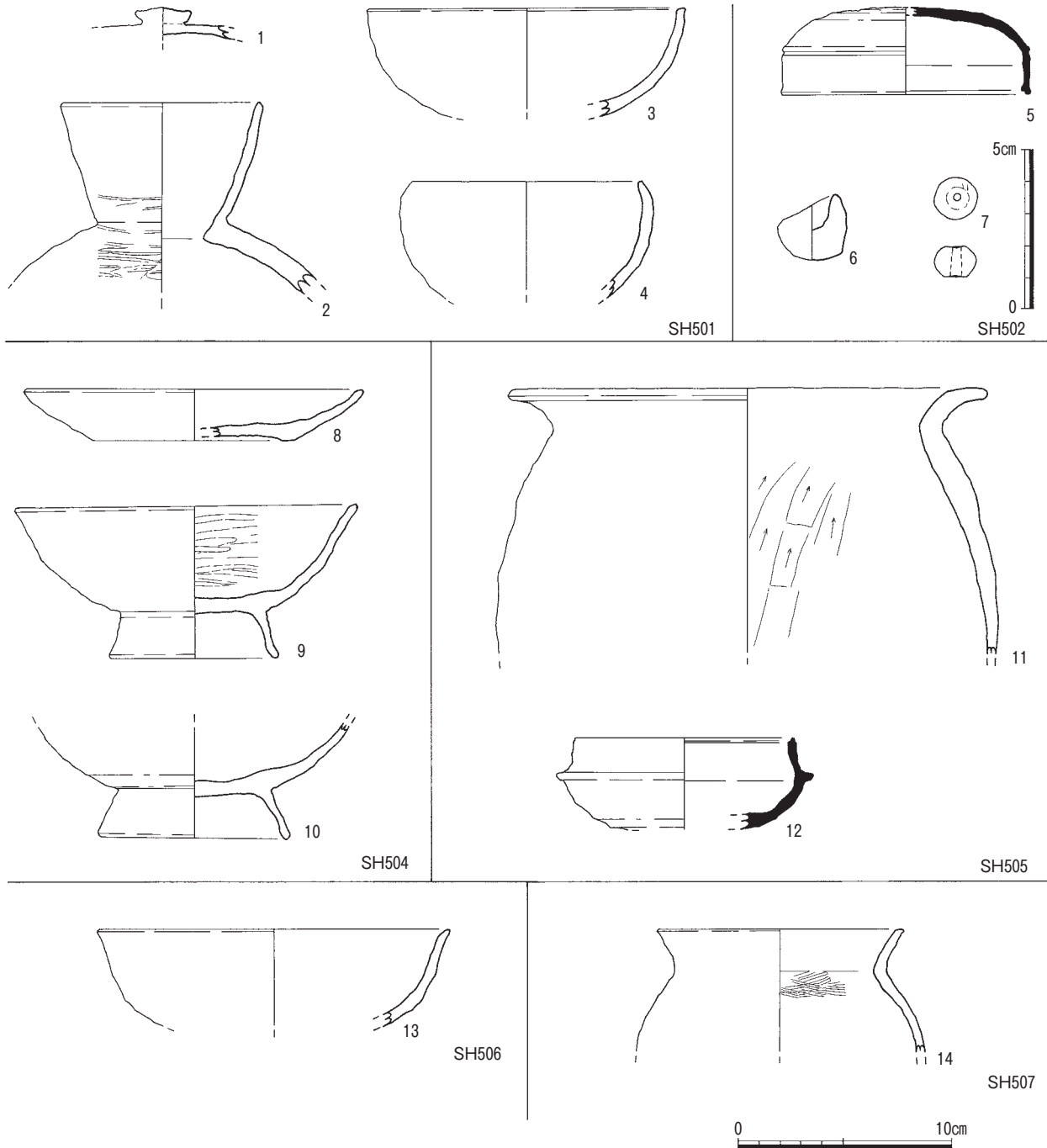


図 11 SH501、SH502、SH504、SH505、SH506、SH507 出土遺物 (1/3、7のみ 1/2)

部のみを検出のため詳細については不明である。なお、区画溝内には小穴がわずかにみられるが、区画溝に伴うものなのかは不明である。

出土遺物は、図 15-56・57・59 は土師器皿、58 は坏である。

SD503

SD501 溝と平行に走る。最大幅 0.97m、深さ 0.24m を測る。断面は逆台形である。

出土遺物は確認できなかった。

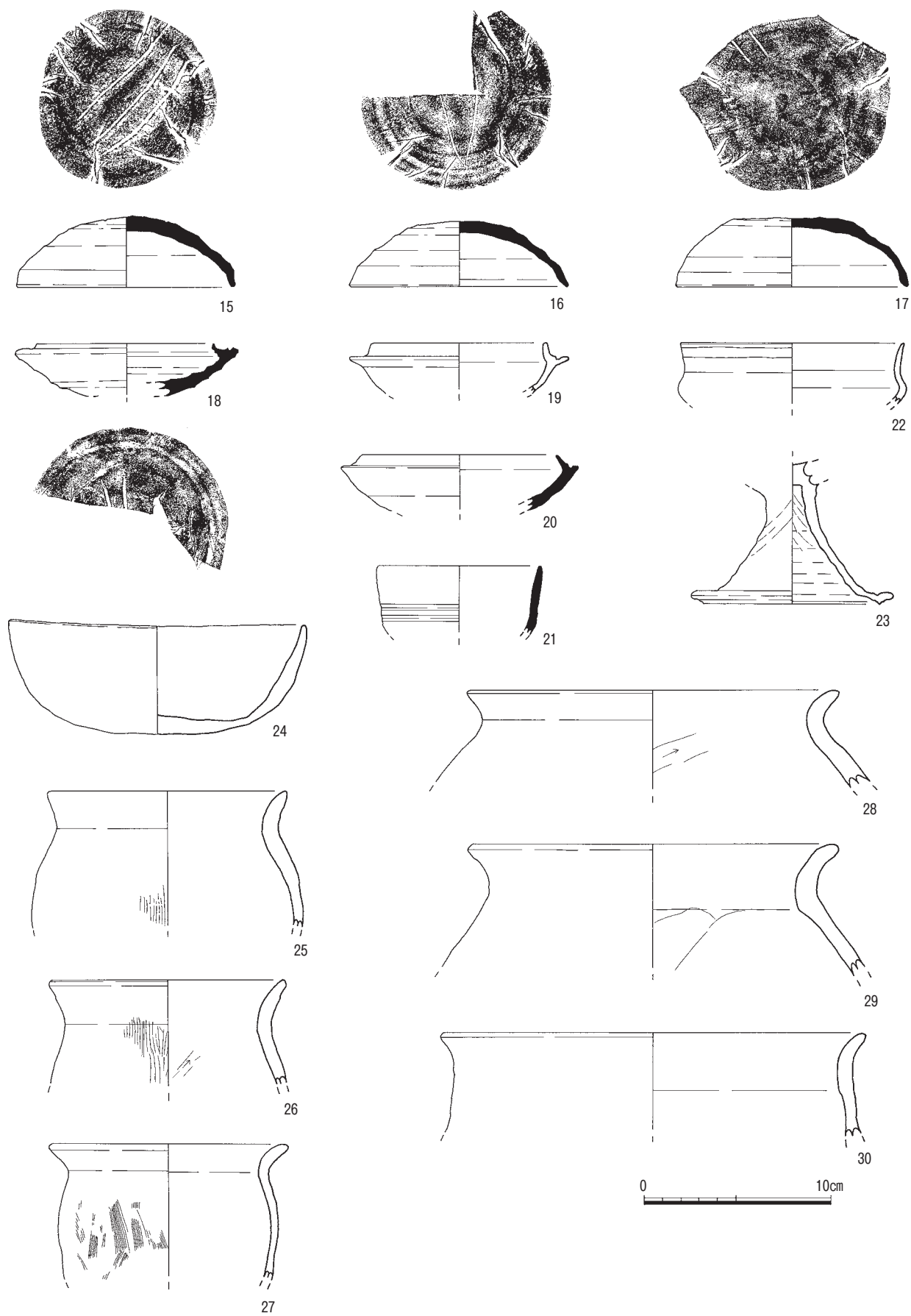


图 12 SK501 出土遺物 1 (1/3)

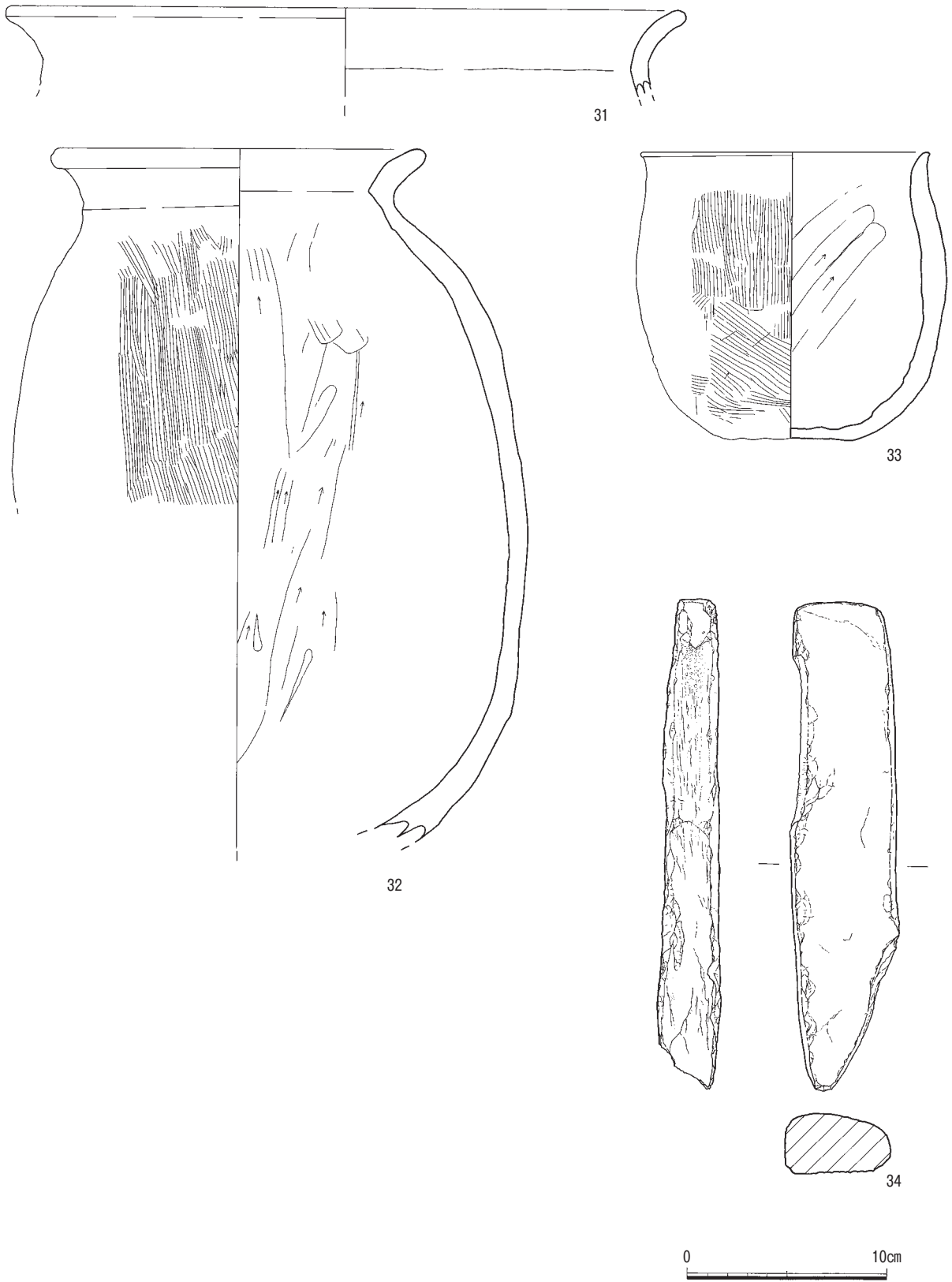
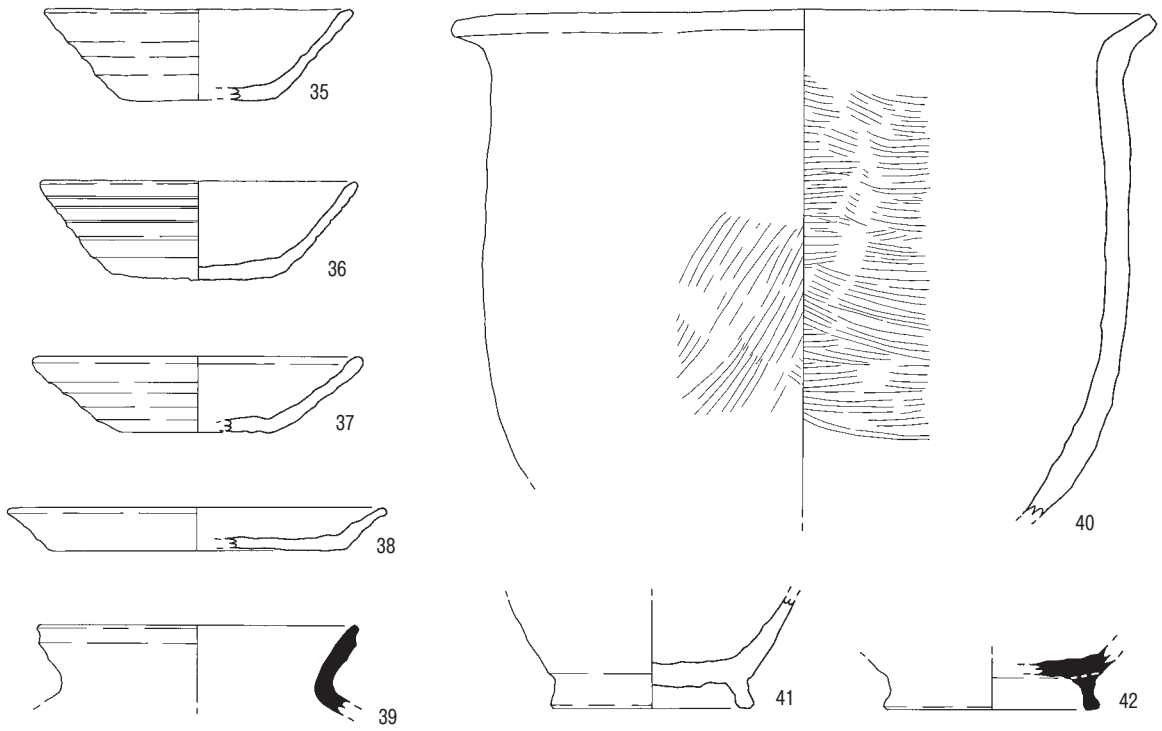
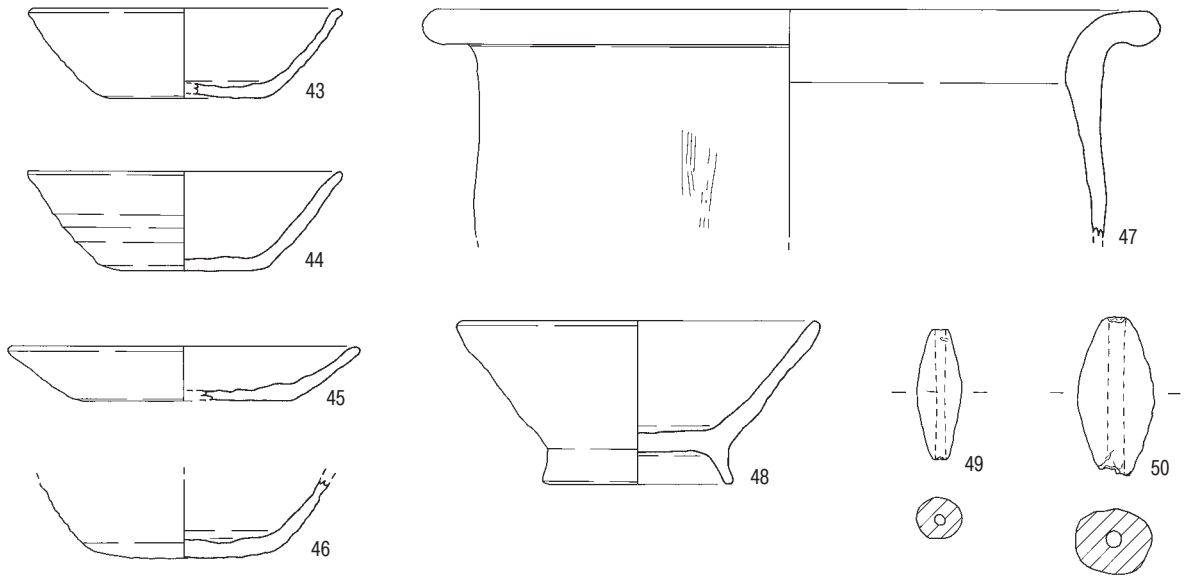


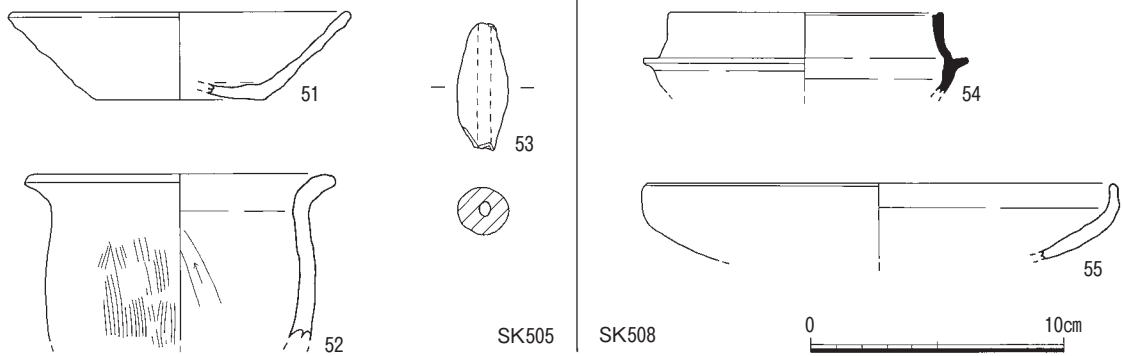
图 13 SK501 出土遺物 2 (1/3)



SK502



SK504



SK505

SK508

0 10cm

图 14 SK502、SK504、SK505、SK508 出土遺物 (1/3)

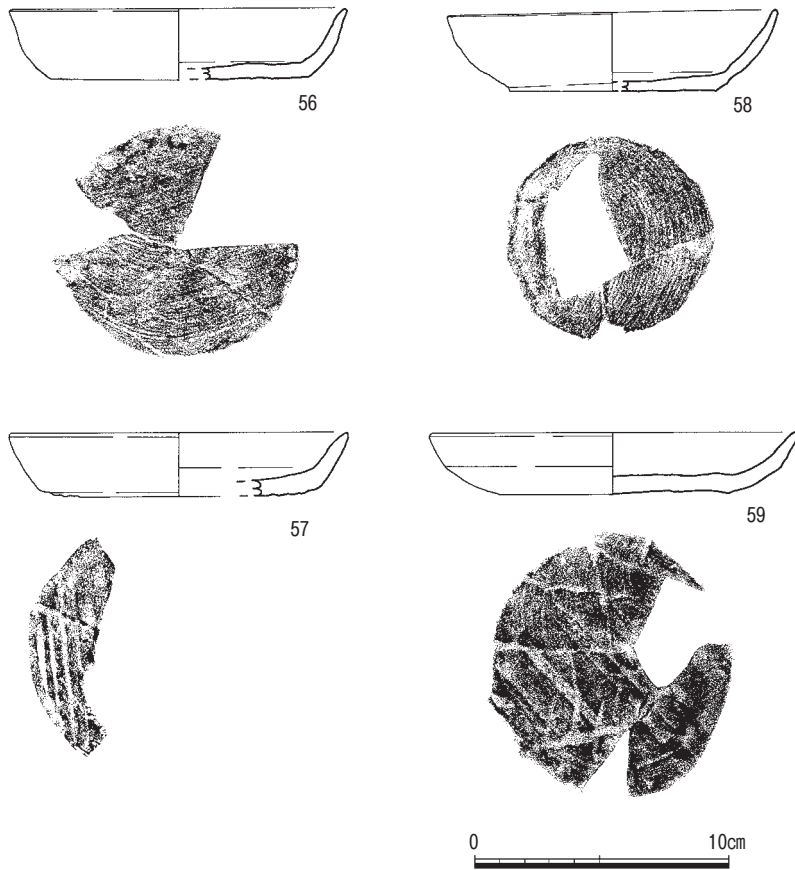


図 15 SD502 出土遺物 (1/3)

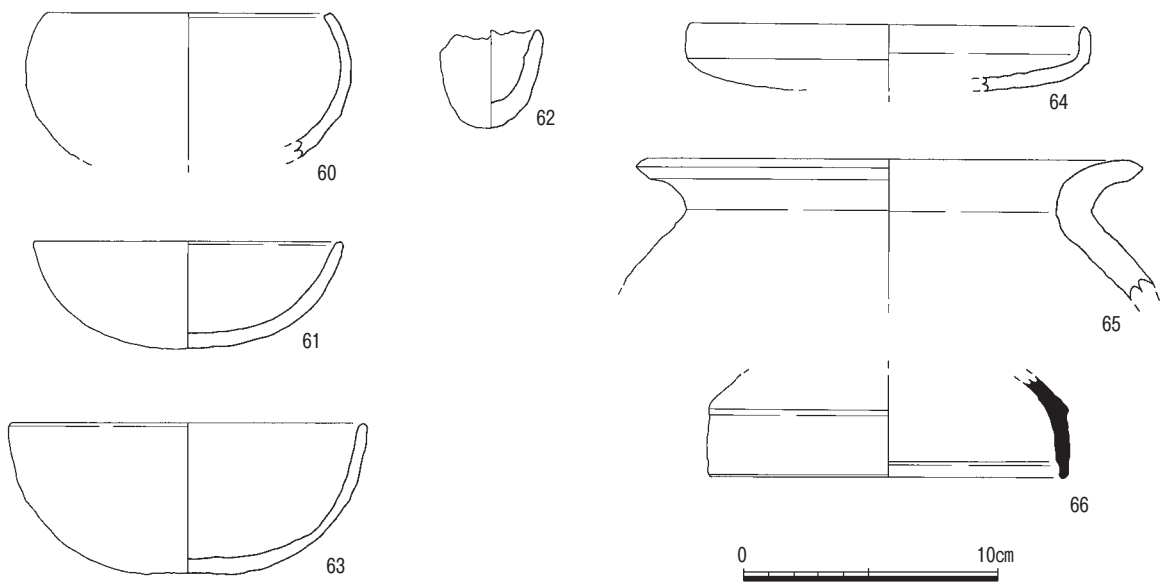


図 16 その他の出土遺物 (1/3)

表1 藪原遺跡5区遺物一覧表

法量の単位はcm。()は復元径、〈 〉は残存径。

番号	遺構	種別	器種	法 量			色 調 () 内面	調 整	備 考	登録番号
				口径	器高	底径				
図 11-1	SH501	土師器	坏蓋	摘み径 2.6			浅黄橙	内面：ナデ 外面：ナデ		100008
図 11-2	SH501	土師器	直口壺	9.6	〈8.4〉		明赤褐	内面：ナデ、ヘラミガキ 外面：ヘラミガキ		100006
図 11-3	SH501	土師器	坏	15.0	〈5.1〉		橙	内面：ナデ 外面：ナデ、ヘラミガキ		100005
図 11-4	SH501	土師器	坏	(11.0)	〈5.5〉		橙	内面：回転ナデ 外面：ヘラミガキ		100007
図 11-5	SH502	須恵器	坏蓋	(11.8)	4.1		灰	内面：回転ナデ 外面：回転ナデ	回転ヘラ切り	100009
図 11-6	SH502	土製品	手捏土器	2.1	2.1		にぶい黄褐			100010
図 11-7	SH502	ガラス	玉	径 1.4 高 0.45			グリーン			100066
図 11-8	SH504	土師器	皿	(15.8)	2.4	(9.6)	にぶい橙 (橙)	内面：回転ナデ 外面：回転ナデ	回転ヘラ切り	100013
図 11-9	SH504	土師器	椀	15.9	7.2	8.0	にぶい黄褐 (黒)	内面：ヘラミガキ 外面：回転ナデ	黒色土器	100011
図 11-10	SH504	土師器	椀		〈5.3〉	9.0	明赤褐 (黒)	内面：回転ナデ、ヘラミガキ 外面：回転ナデ	黒色土器	100012
図 11-11	SH505	土師器	甕	(22.6)	〈12.5〉		橙	内面：ナデ、ヘラケズリ 外面：ナデ		100014
図 11-12	SH505	須恵器	坏身	(10.4)	〈4.3〉		灰	内面：回転ナデ 外面：回転ナデ	回転ヘラ切り	100015
図 11-13	SH506	土師器	坏	(16.6)	〈4.6〉		橙	内面：ナデ 外面：ナデ		100016
図 11-14	SH507	土師器	甕	(11.6)	〈5.8〉		褐	内面：回転ナデ、ハケ 外面：回転ナデ、ハケ		100017
図 12-15	SK501	須恵器	坏蓋	11.6	3.8		灰	内面：回転ナデ 外面：回転ナデ	回転ヘラ切り、ヘラ記号	100018
図 12-16	SK501	須恵器	坏蓋	11.8	3.5		灰	内面：回転ナデ 外面：回転ナデ	回転ヘラ切り、ヘラ記号	100020
図 12-17	SK501	須恵器	坏蓋	12.4	3.7		にぶい赤褐	内面：回転ナデ 外面：回転ナデ	回転ヘラ切り、ヘラ記号、赤焼	100022
図 12-18	SK501	須恵器	坏身	9.4	〈2.8〉		灰黄褐 (灰)	内面：回転ナデ 外面：回転ナデ	回転ヘラ切り、ヘラ記号	100021
図 12-19	SK501	土師器	坏身	(9.5)	〈2.7〉		にぶい橙	内面：回転ナデ 外面：回転ナデ		100035
図 12-20	SK501	須恵器	坏身	(10.5)	〈3.0〉		青灰	内面：回転ナデ 外面：回転ナデ		100037
図 12-21	SK501	須恵器	高坏？	(9.0)	〈3.7〉		にぶい赤褐	内面：回転ナデ 外面：回転ナデ	赤焼	100036
図 12-22	SK501	土師器	坏	(12.0)	〈3.2〉		浅黄褐	内面：回転ナデ 外面：回転ナデ		100030
図 12-23	SK501	土師器	高坏		〈7.6〉	(9.6)	黄橙	内面：回転ナデ、絞り痕 外面：回転ナデ、絞り痕		100023
図 12-24	SK501	土師器	坏	16.0	6.2		黄橙	内面：回転ナデ 外面：回転ナデ		100024
図 12-25	SK501	土師器	甕	(12.9)	〈7.2〉		橙	内面：回転ナデ、ハケ 外面：回転ナデ、ヘラケズリ	内面：口縁部に炭附着	100028
図 12-26	SK501	土師器	甕	(12.8)	〈5.6〉		橙	内面：回転ナデ、ハケ 外面：回転ナデ、ヘラケズリ	内面：口縁部に炭附着	100034
図 12-27	SK501	土師器	甕	(12.9)	〈7.2〉		橙	内面：回転ナデ、ハケ 外面：回転ナデ、ヘラケズリ	内面：口縁部に炭附着	100032
図 12-28	SK501	土師器	甕	(20.1)	〈5.2〉		黄橙	内面：回転ナデ 外面：回転ナデ、ヘラケズリ		100033
図 12-29	SK501	土師器	甕	(20.0)	〈6.6〉		にぶい黄橙	内面：回転ナデ、ヘラケズリ 外面：回転ナデ		100025
図 12-30	SK501	土師器	甕	(23.0)	〈5.3〉		橙	内面：回転ナデ 外面：回転ナデ		100029
図 13-31	SK501	土師器	甕	(34.0)	〈4.0〉		橙	内面：回転ナデ 外面：回転ナデ		100026
図 13-32	SK501	土師器	甕	18.6	〈34.6〉		にぶい橙	内面：ナデ、ヘラケズリ 外面：ナデ、ハケ		100027
図 13-33	SK501	土師器	甕	14.5	14.4	6.0	橙	内面：回転ナデ、ハケ 外面：回転ナデ、ヘラケズリ		100031

表1 藪原遺跡5区遺物一覧表

法量の単位はcm。()は復元径、〈 〉は残存径。

番号	遺構	種別	器種	法 量			色 調 () 内面	調 整	備 考	登録番号
				口径	器高	底径				
図 13-34	SK501	石器	石斧	長 24.4 幅 5.3 厚 2.9			灰オリーブ		挟入柱状片刃石斧	100019
図 14-35	SK502	土師器	坏	(12.2)	3.6	(6.2)	橙	内面：回転ナデ 外面：回転ナデ		100042
図 14-36	SK502	土師器	坏	(12.6)	3.9	(7.0)	黄橙	内面：回転ナデ 外面：回転ナデ	回転ヘラ切り	100041
図 14-37	SK502	土師器	坏	(13.0)	3.0	(6.0)	橙	内面：回転ナデ 外面：回転ナデ		100040
図 14-38	SK502	土師器	皿	(15.0)	1.7	(11.8)	にぶい褐	内面：回転ナデ 外面：回転ナデ		100039
図 14-39	SK502	須恵器	壺	(12.4)	〈3.0〉		灰	内面：回転ナデ 外面：回転ナデ		100045
図 14-40	SK502	土師器	甕	27.8	〈20.0〉		にぶい黄橙	内面：ナデ、ハケ 外面：ナデ、ハケ		100038
図 14-41	SK502	土師器	椀		〈4.3〉	(7.8)	橙	内面：回転ナデ 外面：回転ナデ		100043
図 14-42	SK502	須恵器	椀		〈2.0〉	(8.6)	にぶい赤褐 (橙)	内面：回転ナデ 外面：回転ナデ		100044
図 14-43	SK504	土師器	坏	(12.4)	3.5	(6.6)	浅黄橙	内面：回転ナデ 外面：回転ナデ	回転ヘラ切り	100048
図 14-44	SK504	土師器	坏	(12.4)	3.9	(6.7)	黄橙	内面：回転ナデ 外面：回転ナデ	板目	100046
図 14-45	SK504	土師器	坏	(14.0)	2.2	(8.8)	浅黄橙 (橙)	内面：回転ナデ 外面：回転ナデ		100047
図 14-46	SK504	土師器	坏		〈3.2〉	(7.4)	にぶい黄橙	内面：回転ナデ 外面：回転ナデ	回転ヘラ切り	100049
図 14-47	SK504	土師器	甕	(29.0)	〈8.9〉		にぶい橙 (橙)	内面：ナデ 外面：ナデ、ハケ		100051
図 14-48	SK504	土師器	椀	(14.3)	6.4	(7.5)	浅黄橙	内面：回転ナデ 外面：回転ナデ	回転ヘラ切り	100050
図 14-49	SK504	土製品	土錘	長 5.1 幅 1.8			橙			100053
図 14-50	SK504	土製品	土錘	長 6.1 幅 3.0			にぶい橙			100052
図 14-51	SK505	土師器	坏	(13.6)	3.4	(6.7)	橙	内面：回転ナデ 外面：回転ナデ		100056
図 14-52	SK505	土師器	甕	(12.2)	〈6.5〉		橙	内面：ナデ、ヘラケズリ 外面：ナデ、ハケ		100055
図 14-53	SK505	土製品	土錘	長 5.0 幅 2.0			橙			100054
図 14-54	SK508	須恵器	坏身	(10.7)	〈3.2〉		青灰	内面：回転ナデ 外面：回転ナデ	赤焼	100058
図 14-55	SK508	土師器	皿	(18.7)	〈3.0〉		橙	内面：回転ナデ 外面：回転ナデ	SH501の流れ込み	100057
図 15-56	SD502	土師器	皿	(13.4)	2.8	(10.1)	にぶい黄橙	内面：回転ナデ 外面：回転ナデ	糸切り	100002
図 15-57	SD502	土師器	皿	(13.4)	2.5	(11.0)	にぶい黄橙	内面：回転ナデ 外面：回転ナデ	糸切り、板目	100001
図 15-58	SD502	土師器	坏	13.0	3.2	8.1	橙	内面：回転ナデ 外面：回転ナデ	糸切り	100004
図 15-59	SD502	土師器	皿	(14.6)	2.4	(9.0)	にぶい黄橙	内面：回転ナデ 外面：回転ナデ	糸切り、板目	100003
図 15-60	P560	土師器	坏	(11.3)	〈5.7〉		橙	内面：ナデ、ヘラミガキ 外面：ナデ、ヘラミガキ		100059
図 15-61	P560	土師器	坏	(12.2)	4.2		橙	内面：ナデ、ヘラミガキ 外面：ナデ、ヘラミガキ		100060
図 15-62	P560	土製品	手捏土器	(4.0)	3.9		橙			100061
図 15-63	P597	土師器	坏	(14.1)	5.9		橙	内面：ナデ、ヘラミガキ 外面：ナデ、ヘラミガキ		100065
図 15-64	P580	土師器	皿	(15.5)	〈2.6〉		浅黄橙 (橙)	内面：回転ナデ 外面：回転ナデ		100062
図 15-65	P5108	土師器	蓋	(20.0)	〈5.5〉		黄橙	内面：ナデ 外面：ナデ		100064
図 15-66	表採	須恵器	蓋	(14.1)	〈4.0〉		灰	内面：回転ナデ 外面：回転ナデ		100063

第4章 まとめ

藪原遺跡5区は削平を受けているため、詳細については不明な点が多々あるが、調査によって以下のことが判明した。

遺構は、住居・土坑・溝・小穴などで構成されており、遺物は、土師器・須恵器・ガラス玉・手捏土器などが出土している。古墳時代、平安時代の凡そ2時期を中心に展開した遺跡である。

古墳時代はおもに6世紀の前半～中頃と思われ、唯一SK501だけが7世紀前半に属する。SK501からは多くの遺物が出土しているが、その中で注目される遺物は挟入柱状片刃石斧である。もともと弥生時代前期の範疇に収まるもので、市内では八ツ並金丸遺跡・安永田遺跡（弥生が丘）から出土しているが、藪原遺跡1～5区、また周辺の遺跡からも同時期の遺構・遺物は確認されていない。出土状況についても古墳時代の遺物と一緒に埋納されたような状況であり、流れ込みの可能性は極めて低い。また一緒に出土した土器の中には口縁部が焼け、炭が付着した痕跡を残す土器片を3点確認している。これらのことから推測できることは、時期的にはまったく相容れない石斧であるが、見た目が剣や刀などに似ていることから、弥生時代前期の遺跡などから調達し、祭祀行為などに使用した可能性も指摘できる。当時の精神世界の一旦を垣間見ることが出来るのではないか。

平安時代においても住居と土坑を確認した。SH504については、残存高は5cmほどしか残っておらず、わずかに住居隅を検出したにすぎないが、支柱穴上層から黒色土器Aが2点、逆さにされた状態で出土している。廃棄する際に埋められたものであろう。SK504、SK505からは土錘が確認されているが、調査区西に流れる大木川で使用されたものであろうか。

調査地区の東側を走る国道34号線は、かつて西海道肥前路が通っていたとされており、同時期の遺跡が隣接することは興味深い。5区は丘陵の縁辺部に位置しており、佐賀方面、大宰府方面が遠くまで見渡せる場所にある。4区からもこの時期の遺物が確認されている。また東側のキューピー鳥栖工場の一部立替の際の確認調査でも、同時期の土器が出土している。

中世の溝を3条確認している。SD502は部分的であるが区画溝を確認した。SD501、SD503は、SD502に並行するように走っている。屋敷地などの区画と推測するが、掘立柱建物跡などは検出できなかった。藪原遺跡で中世の遺構・遺物は初見である。



1. 調査区全景（北から）



2. 調査区全景（南から）



1. 調査区全景 (西から)



2. SH501、SK508 (南から)



3. SH502 (東から)



4. SH503 (東から)



5. SH504 (北から)



1. SH504 柱穴出土土器状況 (北から)



2. SH505 (南から)



3. SH507 (南から)



4. SK501 (北から)



5. SK501 出土土器状況 (北から)



6. SK502 (東から)



7. SK504、SK505 (東から)



8. SD501、SD502、SD503 (南から)



1. SK501 出土土器 1



2. SK501 出土土器 2



3. SK501 出土石器



4. SK502 出土土器



5. SK504 出土土器



6. SK504、SK505 出土土錘



7. SH502 出土ガラス玉



8. SH504 出土土器



9. SD502 出土土器

報 告 書 抄 録

ふりがな	やぶはらいせき							
書名	藪原遺跡							
副書名	給油所建設に伴う埋蔵文化財調査報告書							
巻次								
シリーズ名	鳥栖市文化財調査報告書							
シリーズ番号	第83集							
編著者名	島 孝寿							
編集機関	鳥栖市教育委員会							
所在地	〒841-8511 佐賀県鳥栖市宿町1118番地 TEL 0942 (85) 3695							
発行年月日	西暦2011年3月31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 ° ' "	東経 ° ' "	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
やぶはらいせき 藪原遺跡 5区	さがけんとうすしこうのえ 佐賀県鳥栖市神辺 まちあざしもかわら 町字下川原	410213	—	33° 23' 16"	130° 30' 48"	20091203) 20100126	600㎡	給油所 建設
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
藪原遺跡 5区	集落跡	古墳 奈良 平安 中世	住居 土坑 溝		土師器 黒色土器 A 須恵器 ガラス玉 石器			

鳥栖市文化財調査報告書第 83 集

藪原遺跡

—給油所建設に伴う埋蔵文化財調査報告書—

平成 23 年 3 月 31 日 発行

発行 鳥栖市教育委員会
佐賀県鳥栖市宿町 1118 番地

印刷 有限会社 久光印刷
佐賀県鳥栖市田代昌町 477-6 番地